

川中子 おはようございます。今日をご参加くださりありがとうございました。今回は、今年の秋に音楽会があるということで、芸術のことについてお話ししてみたいなあと思ひまして、「芸術（音楽、美術）の教育」というテーマを設けてみました。三吾小でも1年生から音楽や図工の授業があります。国語や算数の勉強も頑張っているんですが、子供たちに、どっちが好き？と尋ねると、だいたい「図工が好き」と答えますね。子供たちは体育とか図工とか、身体を使って何かをするというのが大好きなのでいいんですが、だんだん中学生くらいになると「主要5教科」といって国語や英語の方が大事だ、なんて思われたりもします。しかし、実は、私が音楽とか図工の勉強というのはこれから一生生きていく中で、国語や算数と同じくらい、いやもしかしたら、それ以上に大事なんじゃないかなと感じることがあるんです。というのも、こちらは、今日、特別ゲスト・コメンテーターとしてお招きした、音楽家の中西さんですが、2014年に中西さんから声をかけていただいて、毎年秋に小さな東日本大震災の復興チャリティーコンサートを続けています。それをやり始めて、私は音楽に真剣に向き合うようになり、人生が豊かになったなあって感じるんです。ですから、美術館にいい絵を見に行くとか、コンサートを聴きに行くということも含めて、芸術関係の事っていうのは、死ぬまで一生人生を豊かにしてくれるものなんじゃないかなと思うんです。その基礎を小学校で、音楽とか図工とか、その楽しさを子供たちに伝えられたらなあ、学校経営の中でも大事にしたいなあと思っているんです。そんなわけで、今日は私の友人であります、音楽家の中西洋子先生に来ていただきました。中西先生は、実は私の初任校の中学校の音楽の先生だったんです。私は小学校の時は歌が大好きだったんですけど、音楽の授業というのはあまりよく音符なども分からなくて、いつも先生から怒られてばかりいて、つまらなくなってしまったんです。例えば、クラスで合奏をやっている、私は音符なんか分からないのでタンバリンの担当をしていたんですが、授業の最後に、音楽の先生が「今日の合奏は大変よくできました。タンバリンのをぞいて！」とか言われるんですね。学校の先生には、そういう罪なことをされる方が、結構いるので。それで、非常に傷ついて音楽が大嫌いになったということもありました。そんなこともあって、音楽の先生にどんなことができるんだろうなんて、私自身は期待していない部分がありましたが、中西先生に出会って、子供たちがすごく音楽の授業で変わるんですね。ああ、学校の先生でも、こんなにすごいことができるんだ、ということに初めて気付かせてくれた先生でした。その後、学校の先生の方はご退職され、ご自分で音楽教室を開いて、一人ひとりを大事にしながら育てていらっしゃる。あわせて、学習指導のほうも一緒に面倒見てくださるようになって、今はピアノの教室と学習教室と、両方をやっています。レジュメにも書いておいたんですが、「アンダンティーノ」という教室をやっています。とつてもすてきな教育実践をされています。一人ひとりのよさを伸ばしていくために、保護者の方とも相談しながら、一人ひとりに寄り添って育てていくという教室です。今日は、あとでそういうことについてもお話しただけならなあと思っています。では、長く話しすぎてしまいましたが、今日は、まず、お集まりの皆様から、自己紹介と、音楽や芸術との関係などについて、お話しただくところからスタートしたいと思います。

Aさん 2年生と4年生に子供がいます。私も音楽が大好きで、小学校の時にうけた音楽の授業も本当に楽しくて、私は三吾小の出身ですが、1、2年の時に、体育館で先生が『スイミー』の曲を弾いてくださって、みんなでだーっと走り回って、リトミック的なことをしていただいて。そこから、すごく音楽が大好きになって。うちの子供たちも音楽が大好きです。今日は、そんな話が聞けたらいいなと思って参加しました。よろしくお願ひします。

Bさん 4年と1年に男の子と女の子がいます。今日は夫婦で参加しました。私も小学校の時は音楽と図工がすごく好きだったんですけど、やはりアコーディオンを触る機会があって、そのときに先生から「すごいへたくそね。」って言われて、それがトラウマになってしまって、それから楽器にはほぼ触らず。どうも苦手意識がずっと残ってしまっていて今に至っています。だから、子供たちも図工や音楽が今は好きだと思うんですけど、そういう苦手意識なく、楽しく音楽や図工に携わって行かれるといいなと思っています。

Cさん 私も幼稚園の時から、何かしら音楽に携わらせてもらったなと思って。自分でエレクトーン教室とか、高校時代にも音楽サークルに入って、大学時代も入って、社会人になってからもまだ仲間がいるので、今も続けたりしてい

ます。小学校の時を振り返ってみて、あまり記憶はないんですが、好きだったという記憶だけは残っていて、きっと楽しかったんだろうなと、そういう時間を過ごすことができたのはよかったんだろうなと、ほんやりと思ひます。今日は、音楽がテーマになるのかなと思ひしてお伺ひしました。

Dさん 4年生と2年生の父親です。音楽は小さい頃から好きです。いろんな楽器は弾けるんですが、広く浅く弾けるという感じです。どちらかという、聴く方が専門で、最近はジャズですとか…、ヘヴィメタからジャズ、クラシックまで全部好きです。子供にはピアノを習わせてまして、子供も音楽を通して豊かな人生が過ごせればと思ひています。

Eさん 6年生に子供がいます。えー、見た目で全然音楽とか関係なさそうに見えるんですが、実は大学の時、軽音サークルにいました。先ほども出ていたんですが、理論的なことが先に出てくると難しくていやになっちゃうんですが、分かんないと奥の深い世界なので、そういうのを楽しみながら教えていただいたり、体験できるようなことがあれば、音楽とかに興味が出てくるのかな、と。それと、私は海外で仕事をしていたことがあるんですが、正直言って、語学はすごく苦手で、英語も分からないのに行ってしまったのですが、大学の人に音楽のサークルに入っているときに、ビートルズの歌をコピーしたりしたので、何かの機会の時にちょっと歌ったら、「あれ？おまえ、英語しゃべれるじゃないか。」というふうになったりして。そうすると一気に心が触れあうというか、「こいつはそういうやつだから」という目が変わるんですよ。そういうことも小さいときに自分の中にもっていると、大人になったときに使う機会がきっと出てくると思うので、音楽が浸透していったらいいのかなと思ひます。

Fさん 3年生の男の子の父親です。小学生の時に、住んでた市の音楽祭というのがあって、クラス一人ずつ代表を選ぶというのがあって、各校から集めて合唱団を作るって言うのがあって、選ばれたんですが、練習するときに歌を練習するのかわらたら、まずは腹筋から！本当にそのとき体力がなくて、腹筋がすごくつらくて、半分泣きながら腹筋しながら歌の練習をして。足上げをしながら歌の練習をする、というつらい練習があったというのがスタートでした。ただ、去年の卒対に関わらせてもらったときに、じつは結構音楽やっているって人がいて、去年はピアノとトランペットとサクスをやっている人がいて、やりました。それから謝恩会の時に先生が8人ぐらい出てきて、みんなギター弾いてたのを見たときに、メチャメチャカッコいいと思ひて、自分もギターをやろうかなと思ひて。でも、あのかっこよさを見たくっかけて、子供たちの音楽観が変わるのかなと思ひました。ぜひ、そんな機会を1年生から6年生までに与えてくれたら、みんな音楽好きになるかなと思ひます。

Gさん 5年と3年生に男の子がいます。私と主人は音楽が好きで、同じ職場の人とバンドを組んだりして、家には楽器が、トロンボーン、トランペット、クラリネット、サクスは全部三種あって、家族で遊んだりします。子供は学習塾には行かせてないんですけど、書道教室には行って、学習は大事なんです、人生を豊かにするっていうか。音楽は家で一緒に聴いて、踊ったりしているくらいで。今日は演奏会があると聴いて、それを楽しみにしてきました。

Hさん 5年生と3年生に女の子と男の子がいます。私は、皆さんと違って、ずっと運動をしてきた人間で、音楽は正直あまり得意ではなくて。ただ、姉が音大に行っていて。姉の演奏を聴きに行ったりという機会はあったのですが、私自身はあまりやったりすることはありませんでした。ただ、娘が音楽が好きで、ピアノをやりたいということで小学1年生からピアノを習わせています。家でもお姉ちゃんと弟が学校で習った歌をハモって歌ったりして、やっぱり音楽がすごく好きでやっているんだなと思ひています。今回は、場違いだったら申し訳ないんですが、皆さんがすごく音楽が好きだって聞いて、特にGさんは仲良くしていたのに初めてそんな話聞いて！びっくりしています。

Iさん 4年生に子供がいます。私自身は小さい頃からエレクトーンをやっていて、今保育士として働いているので、ピアノに転向したんです。エレクトーンからピアノに転向するってすごく違ってて苦労はしたんですが、今現在は毎日朝のお歌からいろんな遊びでピアノを弾いて歌っているんです。2歳児クラスの担当していますが、小さい子供たちはみんな音楽が大好きで、みんなにここしながら歌っているのを見て、やっぱり楽しくできたらいいのかなと思ひています。あと、自分の子供について言いますと、年少の頃からピアノ教室に通っていて、楽しく通っていたんですが、その先生がアメリカ人の方と結婚してアメリカに行ってしまったので、先生をかえなければならなくなって、先生がかわったとたんにやりかたが違って、それまでは楽しく通っていたんですが、行きたくないってことになって。今現在はやりたいなという気持ちはあるんですが、きっかけが。先生との相性って言うのもあって。いろんな先生がいるので、いろんなやりかたがあるとは思ひますが。先生の指導というのも子供にとって大きく関わってくるんだなと思ひています。今日は私も演奏会を楽しみにしています。

Jさん 1年生と3年生に娘がおります。私は小学校1年生から6年間ピアノを習って、中学校に入ってから吹奏楽部に入って、熱中してやっていました。

高校も強いところでした。6 年間はトランペットをやっていました。マーチングもやっています、ものすごい体育会系のようにやっていました。小学生の頃は、性格がものすごい根暗な子だったんです。音楽に出会って、自分を表現できるようになって、自分が明るくなることができたので、音楽はすごく出会ってよかったなと思います。高校に入ってからは、ジャズのグレン・ミラーの楽団の曲をやっていて、アメリカの方まで演奏に行ったり。(おお!) で、来週の月曜日の特別授業にもいきたいと思っています。私も演奏を楽しみにしています。

Kさん 4年に子供がいます。皆さんのお話を聞いていると、皆さん楽器をやっていたとか。私もすごく音楽も美術も好きなんです、音楽は校長先生と一緒に、ビートルズを叔父が聴いていたのでずっと入ってくる感じで、今もいろんな音楽が好きです。美術は、私は高校が美術というかデザイン関係の学校だったので、私は日本画が好きなので、墨田にもゆかりがある葛飾北斎とかがすごく好きです。本当に、自分が描くのは下手だし、楽器もできないし歌もだめなので、見たりとか聞いたりするのが好きで、ストレス発散というか、気分転換をしているって言う感じです。

Lさん 2年と4年と6年の子供がお世話になっています。私は音楽が全く苦手で、何も弾けないんですが。もともと小学校の時アメリカにいまして、5年生の時に日本に来たんですが、日本語がわからなくて授業について行けず、そこから出遅れて笛も吹けず『蜂が飛ぶ』で挫折しました。気持ちとしては、弾ける人へのあこがれはあって、将来、年とって暇になったらギターでもやりたいなと言う気持ちはあります。子供が今、上の子がピアノをずっとやっていて、嫌いだったらやめてもいいよとずっと言っていたんですが、幼稚園の頃から今6年までずっとやっていて、好きな子はそのままやらせてやりたいですし、いやな子には無理矢理やらせるのはよくないというのは自分でも経験がありますので。好きな子は楽しくやってもらいたいなと思っています。

Mさん 2年生と5年生に子供がいます。私も音楽、美術はすごく苦手分野で、小学校の頃から成績があまりよくなかったんですが、私も聞いたり見たりするのはすごく好きで、自分が何かできるわけではないんですが。この間初めて娘と本格的なミュージカルを見に行き、生演奏の中、お芝居あり音楽あり、というのを拝見してすごいなあと感動して、娘もこんな表現があるんだ、といろいろと勉強になりました。私の義父は、画家をしております、サラリーマンをしながら画家の活動をしていたんですが、退職して、今は画家一本になったんですが。ある意味、退職してから本当に人生が豊かに、自分の好きな絵を描いて、皆に見てもらってという生活をしているので、それもやはり好きなことがあるからこそ、すてきな人生を送れるのかなと思います。音楽については、やはり去年謝恩会に出て、先生たちがすごく楽しそうに演奏されている姿を見ると、やはり芸術には人を楽しくさせる力があるんだなとすごく感じております。

川中子 ありがとうございます。やっぱり、皆さん、すごいですね。実は今年、保護者の皆様のお力を教育活動にお借りするために、教育財産バンクというのを設けているんですが。今日は皆さんの隠れた力をですね、ぜひ書いて帰っていただきたいなと思います。では、今こうやって皆さんと芸術のお話を伺いました。今日は、音楽とともに生きていらっしゃる先生に来ていただきました。実は、数日前にこういうのがあるんですが来てくれませんかかと頼んだら来てくださったのですが。中西先生はクラシックを中心に演奏されるんですが、今日演奏するような軽いものも演奏してください。私は、だいたいポピュラーなものなんですが。では、中西先生に、今の皆さんのように音楽との関係とか、今やっという「アンダンティーノ」での活動についてお話しただけならなと思っています。いかがですか、ここまでお話を聞いて。

中西氏 いろいろお話を伺わせていただいて、ありがとうございます。改めまして、中西洋子でございます。校長先生の友人です。ほとんどしゃべらないですよ。じゃ、どこでコミュニケーションをとっているかということ、一緒に音楽をやるときだけで、ほとんど、こういう教育論を話したこともありませぬし、プライベートを話したこともありませぬ。ただ、やりましよう、と書いて譜面を郵送して、何日何時に集まって、演奏するというだけの友だちです。でも、それでお互い満足しているんですね。ですから、川中子先生がお仕事の、こういうお仕事をなさっているところを初めて拝見して、ああ、校長先生だ! と思って。でも、この学校は本当に素晴らしい学校だと思いました。美しい学校だと思いました。トイレが美しい、傘立ての傘が美しい、靴箱の靴の揃え方が美しい、そして皆さんの和気藹々としたその空気が美しいです。私は今日それを拝見できただけで満足で、もう何も話すこともないくらいです。今日、皆さんにお話ししようと思ったことも、十分に皆さんが出してくださったので、もう特にないんですね。

私は学校教育の現場から離れました。学校教育は集団教育。集団教育の音楽教育ですから、一人ひとりに十分に対応できない部分が出てきます。それで皆さんも、小さいことで学校の中で傷つくことが、お子さんもあるんじゃないかと思っています。例えばそういうことを拾い上げるのが今の私の仕事かなと思います。例えば、合唱コンクールの伴奏をしたいと生徒が言ったときに、

じゃあ頑張ってくださいましようって応援します。必ず私は聞きに行くんですね。そこで素晴らしい演奏をしたな、って思っても、そこでは順位が付きますよね。そうすると、その子は私は素晴らしい演奏をしたと思っても、もっと(別の子が)伴奏者賞をとったりする場合もあるんですね。そうすると、私は音楽的に一番って思っても、そうじゃないところが評価されたりもするんです。例えば、すごくきれいな音で弾いても、消極的に見えたりすることもありますよね。逆にあまりきれいな音じゃないけれど、すごく自分をアピールして情熱的に弾いたらそれが聞いている人にとっては感銘を受けることもあります。だから受け取り方によって、みんなそれぞれで。そういう点数が付いたり順位がついたりするものってというのは、その場での順位であって、私はその子の価値とは全く関係ないと思っているんです。そういう観点で、私は個人指導というのを大切にしていこうって思っています。例えば、小学校の音楽会で、伴奏のオーディションってないですか? そういうのがある。例えば、私はピアノの伴奏をやりたいけれど、オーディションが何月何日にあって、その中で先生が選んだよって言う場合があります。そこで選に漏れる場合もあるんですね。でも、そこで私は、その子をフォローすることです。その場では選ばれなかったけれど、私たちの小さな発表会で弾いてって言って、その場で弾いてもらう。そのときは教室の子供たちに、その子の伴奏でリコーダーを吹いてもらう。学校の場で叶えられなかったことを、私は実現したり具現化したりすることができる、そういう可能性を追求するのを、教室で目指しています。

私も学校教育にいたときは、何人かの子にきついことを…。吹奏楽コンクールに出たり、合唱コンクールをやったりしてましたので、「勝つために」みたいなことをやっていたと思うんですね。そうしたら、何人もの子がたぶん傷ついていると思います。申し訳なかったなあとと思います。でもそれはその場だけのことでその子の価値とは全く関係ない事です。そこを今、世の中多様化しています。ご家庭の事情も皆違うし、皆さんが大切にしていること、お子さんに願っていることが皆違って当然だと思うんですね。ですから、私はこれからは個別指導と言うことに本当に力を入れていきたいと思って今の仕事をしています。

川中子 中西先生は中学校の先生でしたので、ちょっと想像つくと思うんですが、たいていは適当にやる奴がいて、大変なんです。音楽は授業にならないよなところもあるんですね。そういうところで、中西先生は厳しい先生でしたので、誰もいい加減にやっている子はいなかった。ただ、きちんと取り組んでいるように見えても、いやいややっている子もいるんですね。それをどう引き出して、一つの合唱にするかということに取り組んでいらっやっして。でもその中学校の合唱コンクールって言うのは、とってもすてきで、子供が本当に真剣に取り組むんですよ。で、もしかしたら普段はカラオケに行き流行歌を歌っているかも知れない子たちが、音楽の教科書に載っている曲に取り組んで一生懸命やるっていう経験は、とっても大事なことだと思っているんです。歌謡曲でも、演歌でも、ロックでも何でもいいんです。音楽はどれもすてきなものでいいんですが、音楽の授業で習う音楽も楽しくできたらなと、私は中西先生に出会って思うようになりました。そして、そういうしっかりしたものをやると、ただ聞いて楽しいなというのと違う楽しさ、というのが見えてきたりしますよね。初めて、学ぶことで楽しいことが見えてくるということもありますし、音楽の授業というのはそういう可能性を引き出していくような先生であってほしいなと思っています。今日私は失敗してしまっただんですが、音楽の先生と図工の先生にも今日参加してほしいなと思っていたんですが、授業をやってくださいって言ってあったので、今日はこれなくなってしまう。二人には、ぜひ楽しい授業にしてね、って言っています。

今、中西先生のお話にもありましたが、一人一人に寄り添っていきうのは、今非常に重要な見方になってきていて、実際一斉に何かを教えるって言うのが、どんどん難しくなっていますよね。いろんな子がいます。いろんなご家庭で育っていますので、価値観が本当に多様化して。一人一人の良さを引き出してって、それをあわせたときによりよいものができるというのが、これからの教育の仕方がなと思っています。

それでは、今いろいろと話をしてみても、何か、感想などありますか。

中西氏 音楽会はどんな感じなんですか?

Gさん 子供たちはやりたい楽器を決めて、選ばれて。みんなで選ぶんですね。

Fさん 最終的には先生が選んで。

Dさん 今(オーディション)やっていますよ。通知が来て。

??? ピアノのオーディションも、楽譜ももうもらってきて。

中西氏 やっぱり、そこに向かうまでの過程というのを、親御さんが本当に見てあげてほしい。例えば、オーディションだったら一つのこうラインがあるわけですね。そこに到達しないと合格しないんですが、そこに向かう子供たちの一生懸命にやる姿を見てあげてほしいし、もしそこでクリアできないとしても、本当にそれを分かってあげられるのは親御さんだと思ってるんですね。本当に、親御さんが、自分の子供が一番! と思ってほしいと思う。発表会なんか見ても思うんですが、やっぱり自分の子供がやっているのを見る

って言うのが一番感動しますよね。何でもそうですけど。自分の子供が演奏しているのを聞いているときが一番気持ちが熱くなると思うんです。でも、そういう存在でいてほしいし、子供たちはそれで頑張れると思います。音楽会も舞台は素晴らしいものができると思うんですけど、それに向かうそれぞれの能力とか興味が違いますから、それぞれの自分の持ち分で向き合っていくと思うんですが、それを見守って、一番の味方になってあげてほしいなと思います。それが素晴らしい音楽会を作ることになると思いますね。

川中子 こういう話をすることで、それじゃ、私たちもなんかやっちゃおうか、なんて話が出るんじゃないかなと、密かに期待していたりするんですが。

Fさん でもおもしろいですよね。さっきの謝恩会の話じゃないですけど、先生たちがそれをやることによって子供たちにすごい刺激があるんじゃないかな。とても子供たちにとっては貴重な時間になると思うので。ぜひ取ってもらえたらありがたいな、と。実は、こういう隠れた才能が…。

川中子 いますからね！ まあ、ちょっと集まったときにやってみようかなんて言うのは、とっても楽しいことで。聞いている、見ているだけでもとても楽しいんですが、自分でやってみるっていうのは別の楽しみですよ。私も昔は毎日ギターを弾いていたんですが、大人になるともうギターに触ることもなくなってしまう。授業でちょっと弾いたりするくらいだったんですが、中西さんに誘われてから、頻繁に手にするようになったり、新しいギターを買ってしまって家族にひんしゆくを買ったりしているんですが。基本的に、芸術はなぜ楽しいのかって言うと、「気持ちいい」んですよ。きっと。ギターでぼろんと音を出す。この音が気持ちいいんです。この気持ちよさって、人間にとってすごく大事な感情なんじゃないかと思うんです。さみしいことがあったり、悲しいことがあったり、いろいろあるんですけど、そういうのが慰められたり。これから、皆さんはまだお忙しい世代ですよ、私も含めて。でももう少しすると、暇な世代になっていくんですよ。そのときになって、何を楽しみに生きていくの、っていうのは、今から考えておかなければだめだって、先輩の方々が言っているんですよ。「おい、川中子。おまえ、退職した後何するか考えておいた方がいいぞ。何にもすることないんだよ！」って。実はその年数が何十年ってある可能性があるんですよ。人生100歳まで生きる時代になっていますから。まあ70歳くらいまで働いたとしても、あと30年もあるんですよ。そのときは身体もあまり自由にならない30年なんです。そのとき何を楽しみに生きていくかということ、この、絵を見ていいなと感動したり、自分でも描いてみたりとか、音楽を聴いたり、自分でも演奏してみたり。そういう風に子供たちを育てていきたいなと思っているんですよ、私は。この子供たちは絶対100歳まで生きますので。

中西氏 音楽って言うのは、生涯教育の入り口だと思っています。皆さんも大人になっても、こうして楽しいと。もう、一生楽しめるので、子供たちは今入り口にいるだけなんです。本当に生涯教育という観点で楽しんでいただければ、人生が豊かになります。

川中子 ぜひ、お子さんにも伝えていただいて。それから、お友達にも、こんなこと言っていたよって伝えていただいて、楽器のできる人がいたら、ぜひバンクに登録していただいて！ありがとうございます。最後に、中西先生と、こんなことやっていますというのを…。ちょっと。

Fさん 動画撮って、ホームページにアップしたら？

Dさん いいですかね？（笑い）

中西氏 『誕生』って言う曲を演奏させていただきます。ご存じでしょうか。この曲を選んだのは、何かが生まれるきっかけ？それから、皆様のお子様生まれたときのことを思い出したり。何でもいいんですが、「誕生」という言葉から新しいことの出発という意味合いが含まれていると思いますので、それをそれぞれの皆様の感性でお聞きいただければと思います。

（演奏）

川中子 ありがとうございます。

（文責:川中子）